



つばめ通信

第016号
平成30年5月1日

特定非営利活動法人
NPO 成年後見湘南
平塚市代官町16-37
平塚チェリマンション 102号
発行責任者：成瀬富子

設立15周年を迎えました！

NPO 成年後見湘南は「知的障がい者が親亡き後も安心して暮らしていけるように」と知的障がい者の親・兄弟姉妹たちによって平成15年5月に設立されました。ついこの間の事のようにも感じますが、あれから15年が経ちました。成年後見制度について何度も勉強会を重ねた上での設立でしたが、いざスタートしてみると何から手を付けて良いのやら、分からないことだらけ。当時は親たちが立ちあげた法人後見のNPOは全国的にも珍しく、教えを乞いに行ける法人を見つけることは出来ませんでした。幸いそれぞれの分野に専門家の先生方を顧問にお迎えすることができ、問題にぶつかるたびに先生方にアドバイスをいただきながら皆で話し合い、ご本人ファーストの後見活動に努めてきました。

素人の親たちが立ちあげたNPO法人でしたが、たくさんの方々に支えられてここまでやってこられました。顧問の先生方はじめ、この法人の設立趣旨に賛同して下さった社会福祉士の方たち、市民後見人養成講座の修了生の方たち、一般市民の方たちも後見担当者として一緒に活動して下さっています。また会員になってこのNPO法人を応援してくださっている親御さんや一般の方々には100名を越えました。皆さまのお力添えで15周年を迎えることができました。皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

ご本人を見守る身上保護を第一とする後見方針は裁判所からも厚い信頼を得、これまでに30人の方の後見人をお受けしてきました。15年の間には私どもにお子さんを託されてから亡くなられた親御さんが何人もいらっしゃいます。親御さんの思いをしっかりと受け継ぎ、「親亡き後」もご本人が幸せに安心して暮らしていけるよう、これからも見守ってまいります。

29年度活動報告

今年度は新規に4名の方の後見人に選任され、現在25名の方の後見業務を行っております。新規4件のうち1件は「後見人の交代」という新しい経験でした。後見人としてご本人を支えてきた

叔母が、高齢のため後見人の辞任を裁判所に申立て、後任の後見人を当法人に依頼をされてきたケースでした。成年後見制度がスタートした当初、あるいはそれ以前の禁治産時代にお子さんの後見人になった親御さんたちの高齢化が進んでおり、今後はこのような親族後見人からの依頼も増えるものと思われまます。

ほとんどの方は施設に入所されていますが、今年度はグループホームの方の受任が2件ありました。長期入院中の方も2名いらっしゃいます。25件のうち親族との複数後見は3件のみとなり、すでに親御さんのいない方は16名になりました。

後見業務の活動範囲も広がり、地域は今までの平塚市、大磯町、伊勢原市に加え新たに藤沢市、厚木市が加わりました。

長期に渡る後見活動を維持していくための後継者育成については、4名もの頼もしい新メンバーが今年度から後見担当者として活動を開始してくれました。杉山さん、山崎さん、小倉さん、清宮さん、皆さん勉強家でとてもやさしい気配りでご本人に接して下さっています。末永くよろしくお願い致します。

総会と講演会

平成30年5月28日(月) 10時半～12時までNPO 成年後見湘南の第15回総会をひらつか市民活動センター2階 A 会議室で開催いたします。会員の皆さまにはご参加のほどよろしくお願い致します。

昨年5月の総会記念講演会：野沢和弘氏の「親亡き後を考える」にはたくさんの方のご参加を頂きました。今年度は「親亡き後を考える」第2弾として6月23日(土)に又村あおい氏をお迎えし、親亡き後のご本人の暮らしについてお話しをしていただきます。参加ご希望の方は、チラシをご覧ください。事前の申し込みをお願い致します。30年度も引き続きご本人に寄り添い、1件1件丁寧な後見業を行って参ります。皆様には変わらぬご支援の程、よろしくお願い致します。

(代表理事 成瀬 富子)

スタッフだより

新スタッフの清宮さんをご紹介します。
よろしくお願いいたします。



出会い

「今度、〇日に会議があるから来てみない。」

春は出会いの季節。新しい学校、職場、いろいろな場所での出会いがあります。私とNPO 成年後見湘南代表理事成瀬さんとの出会いは昨秋でした。

昨年の10月、神奈川県社会福祉士会主催の「先輩社会福祉士に学ぶ」という研修が、平塚のJAビルで開催されました。内容は「成年後見人としての取り組み」で熱っぽく熱心に、自己の経験を踏まえて講演していたことを覚えています。特に自分たちが我が子の将来を案じ、自分たちの手によって法人を立ち上げ、裁判所に高い評価を得て法人受任をし、後見活動をしていることに驚きました。以前、横浜家裁は市民後見人を認めてくれないと某東大講師の先生から伺っていたので、信頼に基づく良好な関係ができていたと想像できました。

退職後、某市の市民後見人を希望していましたが、残念なことに応募条件に居住区が指定されていなかったため断念しました。その時、新聞で知った「東大市民後見人養成講座」を受講し、修了しましたが、市民後見人として活動することは厳しい状況でした。

そこで、専門職後見人の道を目指すことも選択肢の一つとして考えて学習に取り組み、資格を得て、秋の出会いがあり今日に至っている次第であります。



この間、スーパーバイザーの成瀬さんにいろいろと教えていただき勉強になりました。「この手続きが住所地特例よ」「登記事項証明書の手続きはこうよ」等々。知識として持っていることが、実際に現場でどうなっているかを知ることができとても参考になりました。

法人の良さとして感じたことは、毎月の会議では、温かい雰囲気の中で自分が担当している成年被後見人ご本人さまについて様子等を報告しあい、みんなで共有することです。また、法制度の

変更や話題になっていることの情報交換や研究会など、メンバーのレベルアップを図る取り組みも継続してやっていることも法人の良さ、強みだと思えました。

出合いを大切に、後見担当者として、ご本人さまのためにみなさまと協力しながら後見活動をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

NPO 成年後見湘南は法人が解散しない限り生き続けるので、いつまでもこの良さをさらに磨き上げ後見活動を継続して行ってほしいです。

(清宮 勝男)

◆ 編集後記

◇ 代表からの記述にもあるように、当法人は設立から今年の4月で満15年を迎えました。

今、手元に5年前に行った設立10周年記念の食事会時の集合写真があります。残念なことですが、このときお元気で写っておられた3名の方が、その後旅立たれ、他に3名の方が卒業されています。一方で、その後、新たな活動メンバーとして6名の方が参加されています。

設立当時のメンバー16名は、今度5月の総会を終えると4名だけになります。総会後は後見担当が20名になるので、如何に様変わりしたかが分ります。

今後の5年は更なる様変わりが想定され、法人を維持していく上で、後見担当者を如何に確保していくかが大きな命題になります。そこで、昨年4月、「今後5年間の対応」を取りまとめ、活動メンバーで共有を図りました。取りまとめから1年、平成29年度の結果は、リクルート活動を積極的に行ったこともあり、目標とする後見担当者の人数を達成することができました。

新メンバーを増やしていくからには、その人たちのスキルアップと早期自立化も同時に図っていく必要があります。そのため、スムーズな活動へのガイダンスメニューとスーパーバイザー制度を導入し実施しました。これらは、新メンバーから好評を得ており、更に充実したものにしていきたいと考えています。

◇ 当法人を実質おひとりでお立ち上げられ、初代表理事を務められた、今は亡き比企さんから本編21冊と別巻1冊から成る「勝海舟全集」を譲り受けてから5年たちました。

譲り受けたときのあまりのボリュームに、比企さんに「健康な内に読み終わられるかどうか？」とお話すると、「枕にでもして下さい」と軽妙にに応じていただきました。実はこのとき誤解をしていました。読むとはとんでもないことで、目を通すのが精いっぱいでした。

現在、本編は目を通し終え、別巻の50頁ほどを残すのみまで漕ぎつけました。私は、実在の人物を扱った小説等から、海舟についてはあまり良い印象は持っていませんでした。しかし、目を通し、各巻の巻末の解説を読むことで、海舟の凄さ偉大さが分り、畏敬の念さえ持つようになりました。

比企さんに感謝していることは申すまでもありませんが、どの様な思いで購入されたのか、比企さんには是非聞いてみたかったとの思いが消えません。(S.F)